

# ピープルズ・ホープ・ジャパン 2011 年度 事業報告

## 1. 概要

当期活動は東南アジア 3ヶ国での支援活動とともに3月11日に発生した東日本大震災の災害支援にも軸足を置き活動を行いました。タイ・インドネシア・カンボジアの支援活動は順調に推移し、これら海外支援に対する募金活動においても商品寄付、補助金を含めた収入計画 10407 万円に対し実績 10925 万円となり、また支出については計画 10401 万円に対し実績 10783 万円となりました。この収支は+142 万円とブレークイーブン計画を達成しました。

一方災害支援活動におきましては、多くの法人・個人の方々のご支援により災害募金収入 3843 万円、商品寄付 3777 万円となり、被災地への医療救護班派遣サポートや被災病院への IT 機器寄贈による支出は 5630 万円となり、災害募金残金 1990 万円は次期に繰越しました。

## 2. 2011 年度 会計概要

(単位:万円)

計画		実績		
収入	計	海外支援	災害支援	計
法人募金	5,812	5,601		5,601
個人募金	850	795		795
パートナー募金	230	230		230
一時寄付	550	752		752
災害募金			3,843	3,843
公的補助金	1,465	1,451		1,451
商品	1,500	2,096	3,777	5,873
計	10,407	10,925	7,620	18,545
支出	計	海外支援	災害支援	計
インドネシア	2,000	1,536		1,536
カンボジア	1,800	1,718		1,718
タイ・ベトナム	2,851	2,816		2,816
災害支援			1,853	1,853
募金広報費	1,450	2,025		2,025
管理費	800	592		592
商品	1,500	2,096	3,777	5,873
計	10,401	10,783	5,630	16,413
収支	+6	+142	+1990	+2132

## 3. 支援活動報告 (事業報告)

### 3-1 東日本大震災支援活動 (総事業費 5630 万円)

PHJは震災直後から被災地での医療支援を行っている社団法人 全日本病院協会と連携して活動を行いました。6月末までの3ヶ月半は主に医療救護班(のべ127班、482人の医師、看護師、その他医療関連職)の仮設診療所等への派遣サポートとともに被災会員病院等の復興支援のため、第1回支援金1500万円ほかパソコン300台、プリンター100台のIT機器や事務用品等の寄贈を行いました。PHJスタッフも数多くの被災地に赴き支援活動を行うとともに復興に向けたニーズ調査も行いました。

### 3-2 タイ支援 (総事業費 3522 万円)

#### ① HIV/エイズ予防教育支援 (指定寄付事業)

2010年度同様の活動方法で、その教育対象範囲を低年齢層へ拡大するとともに、チェンマイ県のパヤップ大学、チェンマイ大学を基盤にメージョー大学、チェンマイ体育教育大学、ラチャマンガラ工科大学の5大学に拡大し、ピア教育者による教育を実施するとともに、学生自らの提案でプログラムを推進できるような体制を作りました。

## **②子宮頸がん・乳がん検診推進支援**（指定寄付および補助金事業）

チェンマイ県メリンおよびメタン郡にて、2007年より3年計画で進めている子宮頸がん予防プログラムは2010年10月で終了しました。引き続き、外務省の補助金によりチェンマイ県内6郡で、乳がんも追加した3年間のプログラムを2010年11月より開始しています。第一年目の活動地域であるサラピーおよびサンカンペン群では、病院長のリードのもと、順調に活動が進んでおり、特に2010年4月に寄贈いただいたミニバス検診車が活躍し検診率を高めるのに役立っています。

## **③HOPEパートナー教育支援**（指定寄付事業）

1998年以来継続している「里親制度的」プログラムで、個人および、企業の支援を得ています。現在62名のドナーにより、63名の長期療養を必要とする子供達および家族への治療および健康教育・自立支援活動を行っています。また、障害児の家族によるケア教育のための施設「ラーニングセンター」の設立と運営も支援しています。

## **④小児先天性心臓病手術支援**（指定寄付事業）

今年度も昨年に引き続き武蔵野市をはじめ多くの企業からの支援のもと、31名の子ども達の心臓病手術支援をおこないました。しかしながら、まだ手術待ち患者リストには250名近くの名前があります。

## **⑤ベトナムハノイ乳がん予防教育支援**（指定寄付事業）

支援対象第四の国として、ハノイの現地NPOのネットワークを利用して、タイ事務所の経験を生かした、乳がん防止自己診断プロジェクトを2011年1月より開始しました。ベトナム進出の可否を見極めるためのテストプロジェクトの位置づけでもあります。

## **3-3インドネシア支援**（総事業費 1715万円）

### **①バンタン州地域保健医療システム強化事業**（自主および指定寄付事業）

西ジャワのバンタン州セラン県で、MDGs目標でもある安全な出産と子供の健康な発育を目指し、村レベルの診療所を中心とした地域医療連携システム強化事業を引き続き実施しました。ブラシアップ教育を受けた助産師が能力と医療サービスを力一杯発揮できる診療所（Poskesdes）・分娩室の建設支援と、妊産婦・女性への保健啓蒙教育を継続実施しています。「栄養改善活動」では、新設栄養給食センターで食育に重点を置いた啓蒙教育と地元食材を活用したクッキング教室を本格展開し、離島では海上交通の難題を賭して保健・栄養活動にも注力しました。

### **②水事業**（自主事業）

母子健康プログラムの事業実施地には上水道設備はなく、生活水に使用される井戸水や雨水の水質はよくありません。診療所での安全な水確保のために、昨年度の掘削経験を活かした事業を引き続き実施しています。

### **③感染症予防事業**（自主事業）

前年度バリ州で鳥インフルエンザ感染予防啓蒙教育事業を実施し成果を挙げました。当地は、特に狂犬病の発生率が高く州保健局から対策への支援要請もあり、これに応える感染症の予防体制整備を支援しています。

### **④画像診断技術支援**（自主事業）

インドネシア・ギアニア病院の医師・技師の画像診断技術を、派遣技師によりブラッシュアップする事業を継続実施しました。2011年度は教育対象者を診療所にも広げ、かつ教育日数も増やすなど充実させました。

### **⑤口腔衛生予防教育支援**（自主事業）

今年度も東バリ地区の口腔衛生予防教育専門家を対象にした小児歯科技術の教育セミナーを開催しました。

### 3-4 カンボジア支援 (総事業費 2929 万円)

#### ① 母子保健 助産師トレーニング (自主事業および指定寄付事業)

2007 年度よりプレイベン州のプレイベン保健行政区で、地域の母子保健の鍵を握る保健センター助産師が、適切な助産サービスに必要な技能を修得することを目標に地元の州病院産婦人科で実践的トレーニングを実施してきました。今年度は、ネアックルーン保健行政区で保健センター助産師 8 名を対象とするトレーニングを実施しました。

#### ② 母子保健改善プロジェクト (補助金事業)

これまでコンポントム州で展開してきた母子保健改善事業の実績とネットワークを活かし、2008 年 1 月より 3 年事業として開始し、成果を上げて終了しました。農村部の保健センターが適切な母子保健サービスが提供できるようになることを目指し、事業終了時評価では、保健センターが母子保健サービスの質を向上させ、その母子保健サービス利用数も著しく増えるなど、事業成果達成を確認しました。

以上